

2 土質関係

工種	項目	区分	試験（測定）項目	試験方法	試験（測定）基準
道路 土工	(1) 路体・路床盛土工	材料	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210	工事着手前 1 回及び盛土材料が変わった場合。
			C B R 試験（路床）	JIS A 1211	
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
		施工	砂置換法による土の密度試験	JIS A 1214	路体 土量 $5,000\text{m}^3$ 以上の場合は $1,000\text{m}^3$ につき 1 回、 $5,000\text{m}^3$ 未満は延長 200m につき 1 回、測定箇所は横断方向に 3 点とする。 高盛土の場合は監督職員の指示による。 路床 延長 200m 毎に 1 回、測定箇所は横断方向に 3 点。
			土の含水比試験	JIS A 1203	
			現場 C B R 試験	JIS A 1222	
			道路の平板載荷試験	JIS A 1215	
			プル－フローリング	舗装調査・試験法便覧 G023	
	(2) 下層路盤工	材料	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210	中規模以上の工事：施工前、材料変更時。 小規模以下の工事：施工前。
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	
			修正 C B R 試験	舗装調査・試験法便覧 E001	
			425 μm ふるい通過部分の塑性指数	JIS A 1205	

注) 1. 「425 μm ふるい通過部分の塑性指数」は、「土の液性限界・塑性限界試験」の試験結果である。

2. 中規模以上の工事とは、施工面積 10,000 m^2 以上あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t (コンクリートでは 1,000 m^3) 以上の場合であり、それ未満の工事を小規模以下の工事という。

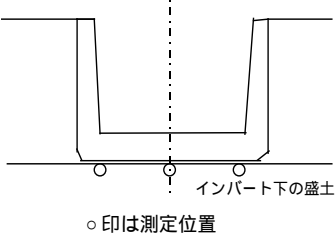
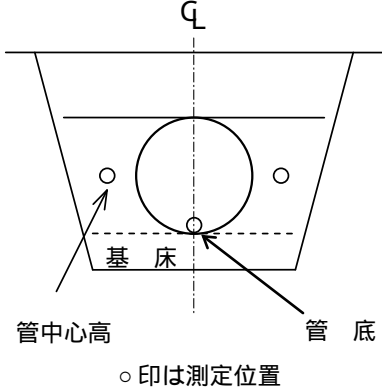
(参考)規格値	管理方式	処 置
1. 乾燥密度で規定する場合 路体 JIS A 1210 の試験で最大乾燥密度に対する締固め度は、 A・B方法 90%以上 路床 JIS A 1210 の試験で最大乾燥密度に対する締固め度は、 A・B方法 - 1 交通 90%以上 - 2 交通以上 95%以上 2. 飽和度で規定する場合、飽和度は 85～95%の範囲とする。 3. 空気間ゲキ率で規定する場合、空気間ゲキ率は 2～10%の範囲とする。 上記によらない場合は特別仕様書による。	1. 記録の方法 試験結果の取りまとめは下記による。 (1) 試験結果は、各々所定の様式に取りまとめ測定値が 20 点以上の場合は工程能力図、X - Rs - Rm又はX - R 管理図等によって管理し、20 点未満の場合は結果一覧表による。 2. 管 理 (1) 盛土の締固めの管理は乾燥密度、飽和度及び空気間ゲキ率のいずれか、また、管水路の砂基礎及び埋戻しの締固めの管理は乾燥密度によることを原則とする。それ以外の方法で管理する場合は特別仕様書によるものとする。 (2) 締固めを現場CBR、平板載荷試験による場合は突固め試験、土粒子の比重試験は省略してよい。 (3) 路盤の締固め管理は締固め密度によることを原則とするが、それ以外の方法による場合は特別仕様書によるものとする。	(1) 所定の規格値が得られない場合は、再転圧、置換等の処置を行う。
特別仕様書による。(路床)		
沈下異常なし。		
JIS A 5001 表 2 参照		
AS 舗装 - 1 交通 10 以上 - 2 交通以上 20 以上		
CO 舗装 20 以上		
AS 舗装 - 1 交通 9 以下 - 2 交通以上 6 以下		
CO 舗装 6 以下		

工種	項目	区分	試験（測定）項目	試験方法	試験（測定）基準
道路工	(2) 下層路盤工	材料	鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 E004 JIS A 5015 付属書 2	中規模以上の工事：施工前、材料変更時。 小規模以下の工事：施工前。
			道路用スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 付属書 1	
		施工	砂置換法による土の密度試験	JIS A 1214	延長 200m毎に 1 回、測定箇所は横断方向に 3 点。
			プル－フローリング	舗装調査・試験法便覧 G023	下層路盤仕上げ後、全幅、全区間について実施する。
			道路の平板載荷試験	JIS A 1215	特別仕様書による。
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	中規模以上の工事：異常が認められたとき。
			425 μmふるい通過部分の塑性指数	JIS A 1205	
			土の含水比試験	JIS A 1203	
	(3) 粒度調整路盤工（上層路盤工）	材料	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210	中規模以上の工事：施工前、材料変更時。 小規模以下の工事：施工前。
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	
			修正 C B R 試験	舗装調査・試験法便覧 E001	
			425 μmふるい通過部分の塑性指数	JIS A 1205	
			単位容積質量	JIS A 1104	
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査試験法便覧 E004 JIS A 5015 付属書 2	
			道路用スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 付属書 1	
			道路用スラグの一軸圧縮試験	JIS A 5015 付属書 3	
		施工	砂置換法による土の密度試験	JIS A 1214	延長 200m毎に 1 回、測定箇所は横断方向に 3 点。
			骨材のふるい分け試験（2.36 mmふるい）	舗装調査・試験法便覧 A003	中規模以上の工事：定期的又は随時。（1～2 回 / 日）
			骨材のふるい分け試験（75 μmふるい）	舗装調査・試験法便覧 A003	中規模以上の工事：異常が認められたとき。
			道路の平板載荷試験	JIS A 1215	特別仕様書による。
			425 μmふるい通過部分の塑性指数	JIS A 1205	異常が認められたとき。
			土の含水比試験	JIS A 1203	

(参考)規格値	管理方式	処 置
1.5%以内。		
呈色なし。		
最大乾燥密度の93%以上とする。 歩道等は規格値の95%以上とする。		
沈下異常なし。		
特別仕様書による。		
JIS A 5001 表2 参照。		
AS 舗装 - 1 交通 9 以下 - 2 交通以上 6 以下 CO 舗装 6 以下		
特別仕様書による。		
JIS A 5001 表2 参照。		
AS 舗装 - 1 交通 60 以上 - 2 交通以上 80 以上 CO 舗装 80 以上		
4 以下。		
スラグ 1.5kg / l以上。		
1.5%以内。		
呈色なし。		
1.2MPa 以上。(12kgf / cm ² 以上)		
最大乾燥密度の93%以上とする。 歩道等は規格値の95%以上とする。		
AS 舗装 2.36 mmふるい ± 15% CO 舗装 2.36 mmふるい ± 10%		
AS 舗装 75 μmふるい ± 6% CO 舗装 75 μmふるい ± 4%		
特別仕様書による。		
4 以下。		
特別仕様書による。		

工種	項目	区分	試験（測定）項目	試験方法	試験（測定）基準
道路工	(4)	材料	配合試験	舗装施工便覧	配合毎。
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	中規模以上の工事：施工前、材料 変更時 小規模以下の工事：施工前
			修正 C B R 試験	舗装調査・試験法便覧 E001	
			425 μ mふるい通過部分の塑性指数	JIS A 1205	
			突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210	
			安定処理混合物の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 E013	
	施工		混合後の粒度の試験（2.36 mmふるい）	舗装調査・試験法便覧 A003	中規模以上の工事：定期的又は随時。（1～2回／日）
			混合後の粒度の試験（75 μ mふるい）	舗装調査・試験法便覧 A003	中規模以上の工事：異常が認められたとき。
			砂置換法による土の密度試験	JIS A 1214	延長 200m毎に 1 回、測定箇所は横断方向に 3 点。
			セメント及び石灰の定量試験	舗装調査・試験法便覧 G024,G025	中規模以上の工事：異常が認められたとき。（1～2回／日）
			土の含水比試験	JIS A 1203	異常が認められたとき。

(参考)規格値	管理方式	処置
土木工事等共通仕様書による。		
AS 舗装 下層 10 以上 上層 20 以上		
AS 舗装 セメント 9 以下 石 灰 6~18		
AS 舗装 セメント下層 0.98M Pa 以上 (10kgf / cm ² 以上) 上層 2.9M Pa 以上 (30kgf / cm ² 以上) (- 1 交通 2.5M Pa 以上 (25kgf / cm ² 以上)) 石 灰 下層 0.7M Pa 以上 (7kgf / cm ² 以上) 上層 0.98M Pa 以上 (10kgf / cm ² 以上) (- 1 交通 0.7M Pa 以上 (7kgf / cm ² 以上)) CO 舗装 セメント下層 0.98M Pa 以上 (10kgf / cm ² 以上) 上層 2.0M Pa 以上 (20kgf / cm ² 以上) 石 灰 下層 0.5M Pa 以上 (5kgf / cm ² 以上) 上層 0.98M Pa 以上 (10kgf / cm ² 以上)		
AS 舗装 2.36 mmふるい ± 15% CO 舗装 2.36 mmふるい ± 10%		
AS 舗装 75 μ mふるい ± 6% CO 舗装 75 μ mふるい ± 4%		
最大乾燥密度の 93% 以上 (AS 舗) " 95% 以上 (CO 舗) 歩道は規格値の 95% 以上とする。		
± 1.2% 以内。		
特別仕様書による。		

工種	項目	区分	試験（測定）項目	試験方法	試験（測定）基準
水路工（インバート下の盛土）	(1) 盛土	材料	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210	工事着手前 1 回及び盛土材料が変わった場合。
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
	施工	施工	土の含水比試験	JIS A 1203	延長 200m 毎に 1 回、測定箇所は横断方向に 3 点。 
			砂置換法による土の密度試験	JIS A 1214	
水路工（管水路）	(1) 基礎（砂基礎等）	材料	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210	工事着手前 1 回及び材料が変わった場合。
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
			土の粒度試験	JIS A 1204	
	施工	施工	砂置換法による土の密度試験	JIS A 1214	延長 200m 毎に 1 回。 上記未満は 2 回測定する。 なお、基礎部横断方向の測定箇所は下図を標準とする。
			土の含水比試験	JIS A 1203	
					

(参考)規格値	管理方式	処置
1．乾燥密度で規定する場合 JIS A 1210 の試験で最大乾燥密度に対する締固め度は、 A・B方法 90%以上 C・D・E方法 85%以上 2．飽和度で規定する場合、飽和度は 85～95%の範囲とする。 3．空気間ゲキ率で規定する場合、空気間ゲキ率は 2～10%の範囲とする。 上記によらない場合は特別仕様書による。		
締固めの規定 (JIS A 1210 の A・B 法) 締固め 85%以上 締固め 90%以上 締固め度 = $\frac{\text{現地で締固めた後の乾燥密度}}{\text{JIS A 1210 の試験方法による最大乾燥密度}} \times 100(\%)$ 上記によらない場合は特別仕様書による。		

工種	項目	区分	試験（測定）項目	試験方法	試験（測定）基準
堤防工	(1) 盛土	材料	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210	工事着手前 1 回及び盛土材料が変わった場合。
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
		施工	土の含水比試験	JIS A 1203	土量 5,000 m ³ 以上の場合は 1,000m ³ につき 1 回、5,000m ³ 未満は延長 200m につき 1 回、測定箇所は横断方向に 3 点とする。高盛土の場合は監督職員の指示による。
			砂置換法による土の密度試験	JIS A 1214	

(参考)規格値	管理方式	処 置
1．乾燥密度で規定する場合 JIS A 1210 の試験で最大乾燥密度に対する締固め度は、 A・B方法 90%以上 C・D・E方法 85%以上 2．飽和度で規定する場合、飽和度は 85～95%の範囲とする。 3．空気間ゲキ率で規定する場合、空気間ゲキ率は 2～10%の範囲とする。 上記によらない場合は特別仕様書による。		